

令和2年度 島田市立島田第二中学校



二中だより 9月号

☆校訓 文化の薫る学校の創造

☆学校教育目標 「こころざしを持ち 自分の道を切り拓く生徒」

令和2年8月28日 発行

「雲浄妖星落 秋高塞馬肥(天高く馬肥ゆる秋)」

漢書にある前漢の将軍、趙充国（紀元前137～52年）の発言です。

「雲浄くして妖星は落ち、秋高くしては塞馬肥ゆ」。「塞馬」は北方の馬、「妖星」は不吉なことで、大意は『秋に空が高く澄み馬も元気に肥えるようになると、北方騎馬民族の匈奴が、大挙して略奪にやってくる』という警告の言葉です。由来からは、前漢と匈奴・羌の歴史的背景と、理科的なすじ雲やうろこ雲のような理科的な秋の上層雲が目には浮かびますが、秋らしい景色の典型には違いありません。

さて、2学期始業式で、今年4月英国エリザベス女王の国民へのスピーチ「We will meet again. (私たちは再び会います!）」の話をしました。コロナ禍で、人々の接触が制限され、SNSやオンラインで連絡をとれても、オンライン上の「つながり」は、人の「会う」とは違うということについては、授業再開時の皆さんの歓喜の姿から、十分理解することができました。良きにつけ悪きにつけ、教育は「会う」ことなしに成り立たないのです。その「会う」ということを考えた時、2学期は、体育大会や文化祭など多くの「会う」機会があります。それらの活動では、「物理的な距離を示すソーシャルディスタンス」ともう一つ、「人と人との心のソーシャルディスタンス」の習得が必須となります。それは人間が社会を営むための基礎であり、「多文化共生」の意識にも繋がると考えています。



更に、学級・学年・部活動などでよいスタートを切るための「魔法の言葉」を伝えました。それは「オアシス」です。オは「おはようございます」、アは「ありがとうございます」、シは「失礼します」、スは「すみません」です。また、もう一つ「スマイル」を加えるとより効果的になることも伝えました。挨拶を交わすことは人の心を開く「最初の鍵」となります。挨拶については、昨年度も話しをしましたが、今回はこのオアシスの「ビギナー」と「エキスパート」について補足しました。これらは、私が仮に名付けたものですが、「ビギナー」は、直接お世話になっている人に対する挨拶、例えば親友、担任、教科担任、部活やクラブの顧問などになります。次に「エキスパート」は、自分が直接お世話になっていない人への挨拶です。更に、家族に対する挨拶は「人生のプロフェッショナル」と言ってみました。これは学校とは別に、人としてとても重要なものです。

最後に保護者の皆様へ周知のお願いです。一昨年度、文部科学省とスポーツ庁からの指示により、島田市教育委員会が部活動ガイドラインを示し、それに従って各校が部活動ガイドラインをホームページに掲載しました。これについては、部活動を担当している多くの中学校教員の残業が、過労死ライン月80時間以上を超えている実態があります。国からは、教員のサービス残業を毎月45時間以内にするなどの「働き方改革」と、部活動を子供の主体的な活動にするという「部活動のあり方」の両方の指針が示されています。このガイドラインには志太三市も連携して取り組んでおり、具体的には、年間全土日のうち52日以上を休み(部活動は土日どちらか1日)とするものです。本年度は、新型コロナの関係で4～6月に十分な部活動ができなかったため、7月以降は比較的土日両日活動する日があってもガイドライン内に収まりますが、来年度からは一層の努力が必要になってきます。国・県・市からの指導だけでなく、労働基準法の問題も含むため、生徒をはじめ、保護者の皆様にもどうかご理解とご協力をお願いします。

島田第二中学校長 池谷 英人